

高速道路も日本人も 「もう一步前へ」

2月23日に亀山～大津間が開通した新名神高速道路(新名神)の通行台数は初物効果と早期開通割引も手伝ってか、開通前の予想を上回る好調ぶりです。比較的ゆるやかなカーブが適度にあり、片側3車線仕様の計画を2車線に変更したゆとりのある道路は走りやすいと評判は上々なのですが、すでに心配事も出てきました。大津から西は名神高速道路(名神)のみ。今でも年間1,600回を数えるこの地区の渋滞増加は必至です。道路を利用されるお客様の不快感は増し、荷物も定刻に届かなくなる。新名神の大津～高槻間に35kmの「当面着工しない区間」があるのは非常に悩ましい問題です。

関西・中部の国際空港、阪神港、名古屋港も整備され、中国との貿易量も増加の一途をたどるなど国際物流の需要はますます増えており、この10年で15億個から30億個に倍増した宅配便やジャストインタイム化をはかる企業の増加による小型輸送トラックの台数増加も顕著です。2年以内に第二京阪道路、5～6年後には京都縦貫自動車道が開通予定ですから、名神を利用する車はさらに増えるでしょう。新名神に限らず、今後の高速道路建設については、道路を取り巻く環境の変化を分析し、将来の予測を立て、さらに諸外国と比較した日本の輸送競争力も考慮した検討が必要です。

日本がめざすべきは先端産業立国と観光立国。多数の歴史文化遺産を有し、産業技術力もある関西は最適の地です。しかし、足りないのが十分に整備された高速道路網。交通の便が良くなれば今以上に国内外から観光客が集まるのは明らかです。また、新名神の開通を見越して多数の工場が立地し、インターチェンジ付近にはもう工場用地がないほどという滋賀県の状態をみてもわかるように高速道路は工場を呼びます。交通の利便性から今後は兵庫県や岡山県、鳥取県などに工場が増えるのではないかと推測されていますが、それに



石田 孝氏

Takashi Ishida

西日本高速道路会長・CEO

は各地域を通る建設中や計画中の高速道路が、近い将来開通することが確実になることが不可欠です。

「東京一極集中は必ず日本を駄目にする」は私の信念です。これを防ぐには地方を元気にしなければなりません。その一番の方策は地元の仕事を作ること、それを可能にするのは、やはり高速道路なのです。

西日本ではまず関西が元気にしなければ。その元気が各地方に波及し、西日本ひいては日本全体を元気にします。それには中小企業の集積という関西の利点を力にするのです。中小企業はオーナー経営者が多く、スピード感のある決断と経営への切実さが特長です。地元自治体や経済界が今以上に中小企業をサポートする仕組み作りなどに尽力し、彼らの熱い思いを関西経済にうまく取り込めれば、関西は絶対に良くなります。

グローバル化の時代を迎え、私がもう一つ懸念しているのは「日本人の国際化」です。街で外国人に何か尋ねられても避けてしまう人がいまだに多い日本人の外国や外国人に対する態度は、鎖国していた江戸時代から進歩していないと言わざるを得ません。これでは観光立国をめざす国としても大いに問題です。当社でもモデルトイレの設置、毎月第一日曜日のサービスエリア(SA)等の2割引や試食販売の推進などのお客様の満足度を上げる取り組みに加え、今後は外国語が話せる料金所やSAのスタッフの充実にも取り組みたいと考えています。“少しでも外国語を学ぼう”、“できるだけ友好的になろう”など各人が「もう一步前へ出る」ことを心がけたいですね。

談